

プロジェクト サーモン的一大産地化

目標

・海面養殖サーモン生産量 R4：1,676t → R10：10,000t

挑戦する内容

- ・新たなプレイヤーの掘り起こし
- ・効率的な養殖手法の確立
- ・安価かつ安定供給可能な飼料開発による養殖コストの削減

関係者の声
=対話

- ・養殖規模の拡大が必要（養殖業者）
- ・養殖コスト増大が課題（養殖業者）
- ・「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換が必要（漁業団体（沿岸））

役割分担

- ・漁業団体（沿岸）：新たなプレイヤーの掘り起こし
- ・養殖業者：実証試験の実施、マニュアル素案の作成
- ・産技センター：県産魚粉を用いた飼料開発、給餌実証試験
- ・県：新たなプレイヤーの掘り起こし、効率的養殖手法の確立に向けた実証試験の支援、マニュアル作成

変革後の姿

- ・新規プレイヤーの参入、効率的な養殖手法の普及により、海面養殖サーモン生産量が増加
- ・養殖コストの軽減により、漁業所得が向上し経営が安定

令和6年度計画

挑戦する内容

- 1 新たなプレイヤーの掘り起こし
 - ・現地調査による新たなサーモン海面養殖を担うプレイヤーの掘り起こし
 - ・内水面養魚場とさけ・ますふ化場での現地調査による、新たな種苗生産を担うプレイヤーの掘り起こし
- 2 効率的な養殖手法の確立
 - ・波浪や潮流の影響が強く厳しい海況にある津軽海峡海域において、養殖効率向上を目指した実証試験を実施
 - ・実証試験により得られたデータを基に、サーモン養殖を広く普及することを目指したマニュアルを作成
- 3 安価かつ安定供給可能な飼料開発による養殖コストの削減
 - ・県内で生産される魚粉等を原料とすることによる原材料コストカット、簡易な製造機器を用いた製造コストカット等を検討



海面でのサーモン養殖



海面養殖サーモン

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（8月、1月）
- ・現地調査、八戸水産アカデミーとの連携による意見交換、情報交換を実施し、新規参入促進に向けた意見を集約（4月、7月、12月、3月）
- ・増養殖検討会を開催し、関係団体等とサーモン養殖の推進について意見交換し、事業構築に反映（年3回）